

「芦田川整備計画学識懇談会」 設立趣旨

広島県東部に位置する芦田川流域は、広島・岡山両県にまたがり、昔から山陽道の海と陸の拠点として発展した備後地方を抱え、近代では昭和３９年に「備後地区工業整備特別地域」の指定を受けて以来、瀬戸内海沿岸地域における社会、経済、文化の基盤をなしてきました。芦田川は、大正８年７月、昭和２０年９月などをはじめ、近年では平成１０年１０月に水害を受けたことから、治水面ではこれまで以上の整備が期待されている一方、環境面など多様な価値観にも配慮した整備・保全・管理が求められており、治水・利水・環境という見地から「芦田川」を考え、河川のみでなく流域全体として様々な水問題、「芦田川」にまつわる水循環を捉えて、流域全体の総意としての合意醸成のもと流域住民と一体となった川づくりが求められています。

こうした中、芦田川の長期的な河川整備の方針を定める「芦田川水系河川整備基本方針」が平成１６年６月に策定されました。

芦田川水系河川整備基本方針の決定を受けて、中国地方整備局は、芦田川の整備や管理にかかるこれまでの経緯を踏まえて、今後２０～３０年間の芦田川の整備・管理の内容を具体化する河川整備計画を検討することとしました。このため、芦田川に関わりが深く専門的知識を有する学識経験者の方々から意見を聴くことを目的として「芦田川整備計画学識懇談会」を設立します。